

北区 松浜地区コミュニティ協議会

活動名：青色パトライトパトロール事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

通学路での不審者事案が多くある中、子供達の見守りが不十分なため、関係団体と話し合い地域で何とか取り組みが出来ないか考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

青パトの自主防犯パトロールなどにより、安心・安全な地域環境を目指す。
主体となる人材を選任育成して、コミ協として見守り活動を推進する。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

青パト（登録3台）により、地域巡回、声掛けなどを行いました。
また、パトロール用のユニフォームを作成し、各隊員に配布いたしました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

松浜小学校、松浜交番所

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

学校・交番との連携が良くなり、放置自転車等の撤去がスムーズにできた。
パトロール用のユニフォームを着用することにより、隊員としての自覚を高めるとともに、地域に見守り活動をアピールすることができた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

出勤日誌を作成し、記録を残すことで情報の共有を図りました。
パトロールの際の同乗者の確保が難しいことがありました。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

これからも松浜地域が少しでも良くなるよう、地域内で協力者を募り、青パトの台数増や同乗者の確保に努めていきたいと考えています。



北区 コミュニティ木崎村

活動名：安心・安全な地域づくり

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域の声を聞くことが先決と全世帯にアンケート調査を実施し、あわせて中学生にもアンケートを実施した。その結果、コミュニティ木崎村のキャッチフレーズとして、「安心・安全いきいき木崎」を採用した。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

安心・安全は地域みんなの手で、防犯部会の活動

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

小中学校の下校時間に合わせて（午後2時30分～4時）、毎月10日と20日に、各集落から選出されている防犯部員とコミセン職員が青色回転灯を装備した車で、地域内を一周する防犯パトロールを実施している。（全自治会が輪番制で実施）

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

北区交通安全指導員木崎支部

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

防犯パトロールで地域内を一周しているが、児童・生徒が手を振ってこたえる等すっかり定着した活動になった。防犯・交通安全のテープを流しているが、テープの声を聞くと、より整列を直すなどの効果が出ている。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

春と秋の交通安全旬間に各自治会の主要交差点で、交通安全を呼びかける人間のぼり旗作戦を実施しているが、3年前から、秋は小学生も参加できるように土曜日に実施し、参加者が大幅に増加した。（現在は概ね500人程度が参加）

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

中学生に防犯標語を募集し、優秀作品5点を防犯標語看板にして5自治会に配布していた。今後は、優秀作品を3点に絞り、防犯標語ののぼり旗を作成し、地域内の全自治会に毎年配布していきたい。

北区 早通地域コミュニティ委員会

活動名：「早通みまもり隊」組織活動事例

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域の子どもは地域で守る気風を高め、地域内での教育力の向上を図る。
児童生徒の登下校の安全を確保する。
不審者の抑止を図る。以上の課題解決のために組織を立ち上げた。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

早通地域の子ども達が、地域で安心・安全に過ごせるよう「みまもり活動」を行うことにより、子供たちの安全の保障や安全意識の向上、健全育成に寄与し、併せて地域内での教育力の向上を促進させる。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- 緊急時みまもり(全隊員 約60名に連絡)
- ・不審者等事件発生時や災害時において、地域・学校・警察署より要請があった場合実施
下校時でのみまもり(出勤可能な隊員)
 - ・安心・安全な登下校の確保・交通安全の喚起運動・あいさつによる声かけ運動の実施
- *原則として、毎月2~3回程度、自治会内通学路や主要交差点等で1~2時間実施
- 4月当初は、登下校時に小学校新規入学生の付添い(交通安全指導)を実施する。
- 夕刻時でのみまもり(ローテーションを組みグループで出勤)...非行防止活動
- ・夏休み前後の期間におけるみまもり活動の実施(駅前・公園・コンビニ・スーパー等)

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

早通南小学校

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

- ・地域ぐるみでみまもり活動を行うことにより、安心・安全の確保が一段と向上した。
- ・小学生の生徒と指導を通じて交流を図ることで、世代間の格差を超えて気軽に児童・生徒と話ができる等、交通安全に関する意識の向上のみならず、生徒が抱える困りごとや相談などに対して助言や問題の解決に大きく貢献できた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

- ・通年を通じた人材の確保(みまもり隊)...苦労した点

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

- ・主として小学生を対象とした交通安全意識の向上の充実、犯罪発生時における緊急対応の拡充、更なる犯罪等(児童・生徒による万引きや喫煙・夜遊び等)の抑止活動
- ・現在、当コミュニティ委員会では、「みまもり隊」が行う上記事業に伴い、中学生・高校生を対象とした施設(健全育成促進施設)を立ち上げ、交流場所や勉強する場所を提供している。今後も施設ボランティアの充足を図るとともに、安心・安全意識の向上や青少年健全育成の促進、社会教育の拡充また、地域間での更なる一体感の醸成を目指したい。

北区 南浜地区コミュニティ協議会

活動名：我が家の緊急連絡先カード配布事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

南浜地区全域で自主防災組織は組織されているが、各家庭での対応が不十分であるため、ある日突然何かがあった時（災害が起きたり具合が悪くなるなど）周囲の人の支援が必要な場合、地域で支え合うネットワークづくりが必要である。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

我が家の緊急先カード作成，配布することにより日頃から安心安全なまちづくりや地域で支え合う地域コミュニティ活動を確立するため。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

緊急連絡先カードを作成し，その必要性及び利用方法について各家庭を訪問して説明及び配布を行い，各家庭で必要事項を記入していただくことで緊急時に備えて自覚を促す活動を実施した。

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

我が家の緊急連絡先カードを作成し，その必要性及び利用方法について，各家庭を訪問して説明及び配布を行い，地域住民の方から緊急時に備える意識の高揚を感じた。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

説明資料の準備及び説明員の確保など。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

安心して暮らせる地域で支え合うネットワークの構築には時間がかかるため，広報宣伝活動，説明会を継続して行う。

北区 濁川地区コミュニティ協議会

活動名：健康体操講座・健康料理教室

活動内容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

高齢化により高齢者世帯が増加している中で、健康保持に努め、自立生活を送れるように地域で取り組む必要があると考えました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

高齢期を迎える方々を対象に、食生活や運動による健康づくりの大切さを学び、自立生活を送れるよう高齢期の健康保持を支援します。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

生活習慣病予防に役立つ料理法や高齢者のための運動（体操）について、講義と実技指導、料理実演、試食を行いました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新潟医療福祉大学 准教授 佐藤 敏郎氏・生活習慣病予防士 中野 清美氏

実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

食生活や運動による健康づくりの大切さへの理解を深め、高齢期の健康保持の関心が高まった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

健康体操講座・健康料理教室とも1回しか開催を予定していなかったが、参加希望者が予定より多く、会場のスペースの都合もあり、やりくり苦労した。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

健康体操講座は体力年齢の測定等を加え、継続的に開催し、健康料理教室も複数回開催することで、健康保持について地域住民の意識を高め、各家庭で健康づくりに取り組めるよう推進していきたい。

北区 岡方地区コミュニティ委員会

活動名：地域の宝十二瀧（三日月湖とその植生）としての環境保全・活用事業

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

平成 19・20 年度において、十二瀧の動植物分布調査を行った結果、国・県の絶滅危惧種に指定されているアサザ・ガガブタが確認されました。また、極めて多様な自然環境が残されている数少ない湖沼であるとともに、阿賀野川の河跡湖であること等が分かったことから、地域の宝として後世に引き継ぐための保全活動が必要となりました。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

行政と地域住民が協同して、地域の自然・風土を活かした環境保全の意義と可能性を探ることとし、有識者・専門家との懇談、調査、学習会等を行い、アサザ・ガガブタ等の保全活動を継続的に実施できる体制を築く目標を立てました。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

- ・平成 22 年度は、十二瀧についての意識調査アンケートを実施するとともに、十二瀧の自然環境・川歴史シンポジウムを開催して地域住民の瀧情報共有化を図りました。
- ・平成 23 年度は、十二瀧における学習会、観察会、活動報告会を開催し、有識者や専門家の講習を受け、瀧周辺の環境やアサザ・ガガブタの保全計画を検討しました。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

平成 24 年度に、学校の環境教育の場としても活用を図り、地元小学校と連携・協力してアサザ・ガガブタや瀧の観察会を開催する等、大きな成果を挙げることができました。



実績・効果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

十二瀉の動植物分布調査後、3年間にわたってアサザ・ガガブタや瀉周辺の環境保全に取り組んできた結果、子どもたちを含む地域住民の意識改革が図られたことから、今後の保全活動につなげることが可能になってきました。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

環境保全活動は、地道な活動が必要となることから、従来、瀉周辺の住民で取り組んできた瀉の一斉清掃を始め、アサザ・ガガブタの観察会等すべて岡方地区全体で取り組むことに配慮しました。なお、瀉面及び周辺地はほとんど個人所有地であるため、保全活動に支障をきたす場合もあります。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

引き続き、アサザ・ガガブタや瀉周辺の環境保全に取り組むこととし、継続的な各種観察を行っていきます。ガガブタの調査が十分でなかったことから、この調査の可能性を探るとともに、瀉の植生に悪影響のある外来植物（カゴスメリ）の駆除に力を入れます。将来的には水辺環境の保全を実践する他地域との交流にまで活動を発展させていきたと考えています。



北区 葛塚東小学校区コミュニティ協議会(葛塚連合)

活動名：福島潟たから探しウォークとクルージング

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

地域の環境やたからものを大切に、自然と共存しながら、人々が互いにふれあい、安心して暮らせる地域をつくること。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

福島潟の自然や文化に親しみ、人々の交流を図れる事業を展開すること。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

福島潟を中心に地域の誇りとしての自然や文化をたからものと位置づけ、その再発見の契機としてのウォークとクルージングを企画したこと。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

新井郷川漁業協同組合、豊栄土地改良区

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

自然や文化の大切さを再認識するとともに、地域の人々の交流が深まったこと。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

参加人員の確保

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

より深く地域の自然と文化に触れ合う機会を作っていきたい。

北区 長浦コミュニティ委員会

活動名：交通安全運動（人間のぼり旗）（カーブミラー点検）

活 動 内 容

Q この活動のきっかけとなった地域の課題は何ですか？

高齢者の交通事故防止、子供たちの通学・下校時の交通安全及び防犯が課題。

Q 課題解決に向けて、どのような目標を立てましたか？

各所属自治会の役員関係者に交通安全と地域防犯意識の向上を図る。

Q 目標達成のために、どのような活動を行いましたか？

人間のぼり旗の実施、カーブミラー点検の実施。

Q 活動の際に、コミュニティ協議会の構成団体以外で連携・協力した団体等がありますか？

警察署、交通安全母の会、交通指導隊、交通安全協会

実 績・効 果

Q 活動によって、どのような効果がありましたか？

黄色、ピンク色の交通安全、のぼり旗を各所に掲げ防犯ベストの着用により地域防犯にも効果があった。

Q 活動を行う段階で、工夫した点や苦労した点はどんなところですか？

社員が多く平日の朝の活動が難しく人間のぼり旗の実施は、休日の朝8箇所、160名の参加者であった。

Q 今後、どのように活動を展開していきますか？

警察署、駐在所と連携を図り無理のない長続きする活動を展開したい。